



しびれから物忘れまで 全神経疾患に対応

対象とする疾患は、脳・脊髄・末梢神経・筋肉の疾患と広範におよぶが、超高齢化社会を迎え、患者数は急増している。神経内科疾患は、正確な臨床診断のもとに適切な治療を行うことで治療可能なものが多い。当科は、日本神経学会パーキンソン病ガイドライン、てんかんガイドラインの作成委員を擁し、「治る神経内科」をめざし、エビデンスに基づいた診療を日々行っている。

代表的診療対象疾患

脳血管障害（脳梗塞）、アルツハイマー病、そのほかの認知症、パーキンソン病、パーキンソン病類似疾患、てんかん、脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患（筋委縮性側索硬化症など）、多発性硬化症、ジストニア、末梢神経疾患、筋疾患、重症筋無力症、頭痛、脳炎、ミエロパチー（脊髄障害）、内科疾患に伴う神経合併症など多岐にわたる。

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

当科では、上述の脳・脊髄・末梢神経・筋のさまざまな疾患を治療対象としている。日本神経学会認定神経内科専門医が、広範にわたる神経疾患の診療を担当している。

入院診療体制と実績

病床40床（コアベッド数、北病棟4階32床〔形成外科、皮膚科と共通フロア〕、南病棟6階6床〔婦人科と共通フロア〕、南病棟7階2床〔耳鼻咽喉科と共通フロア〕）を有する。

神経内科入院症例

疾患名	2009年度	2010年度	2011年度
虚血性脳血管障害	153	152	95
脳出血	6	4	0
てんかん・けいれん	155	153	166
認知症	38	33	30
パーキンソン病および類似疾患	187	189	171
運動ニューロン疾患	36	40	56
脊髄小脳変性症	57	54	58
多発性硬化症等の脱髄疾患	24	14	46
脳炎などの感染症	38	43	26
脊髄疾患（HAMなど）	40	40	21
末梢神経疾患	53	46	70
筋疾患	42	40	56
重症筋無力症	48	43	56
内分泌・代謝疾患	14	5	2
全疾患延べ件数（上記外も含む）	909	962	940

高度先進医療の取り組み

脳機能総合研究センターとの共同研究

①硬膜下電極モニタリングについて、脳神経外科・脳機能総合研究センターと共同で、長時間ビデオ脳波モニタリングを行っている。必要に応じて、硬膜下電極留置によるモニタリングも行うことにより、正確な焦点の同定と周辺皮質機能局在の検索に努めている。

②経頭蓋的磁気刺激装置について、脳機能総合研究センターとの共同で頭蓋外から大脳皮質を磁気刺激し、運動ニューロン疾患、多発性硬化症など錐体路に病変のある患者の病態把握に活用している。さらに、神経フィードバック法による難治てんかんの治療を試みている。